

令和6年度

事業計画

付 令和6年度予算

 日本赤十字社 大阪府支部
Japanese Red Cross Society



人間を救うのは、
人間だ。

基本方針

1.はじめに

日本赤十字社は、1877年の博愛社創設時より、国内外での人道支援活動をはじめ、医療事業や血液事業、社会福祉活動等、様々な社会課題やニーズに応じた事業を展開し、その使命を果たしてきました。しかしながら、創立140年が経過し、日本赤十字社が置かれた環境は大きく変わり、自然災害の増加や甚大化はもとより、人口の偏在や格差の拡大、グローバル化、情報通信技術の発達等が進み、これらの動きは加速していくことも想定されます。こうした不確実性の高い社会環境下にあっては、より人道ニーズに柔軟に対応できる赤十字への変革が求められ、これまでの常識や経験、考え方にとらわれない抜本的な改革や見直しにチャレンジしていく必要があります。

2.「長期ビジョン」の趣旨と位置づけ

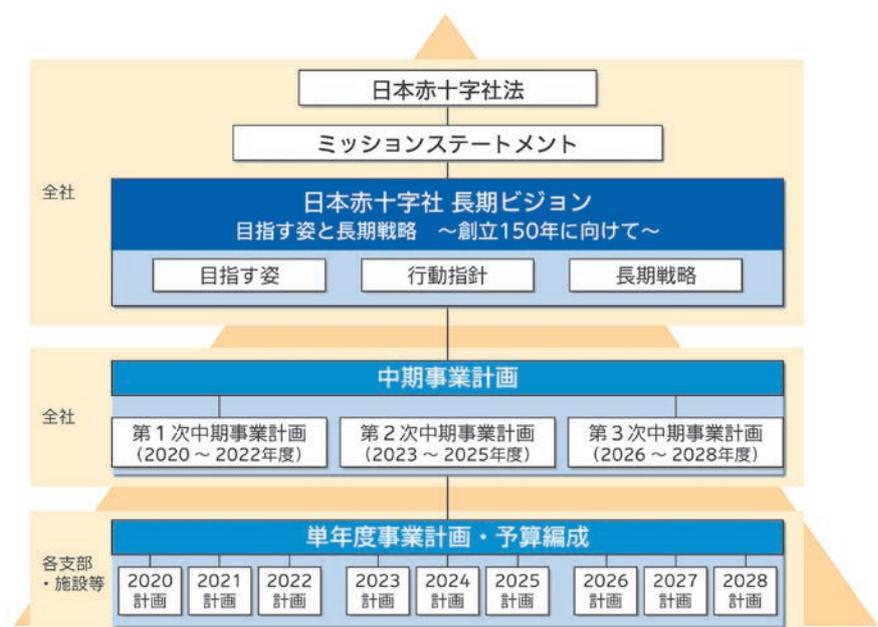
日本赤十字社がこれからの社会課題やニーズに柔軟に対応し、地域の期待に応え、創立150年に向けてその使命を果たし続けていくため、令和元年に「日本赤十字社長期ビジョン」を策定しました。

日本赤十字社が目指す姿「国内外における人道支援活動の“要”となり、我が国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字」を社内外に示すことで、組織の進むべき方向性の集束・横断的な結束を高め、より多くのパートナー（会員、ボランティア、寄付者等）の理解・協力を得ながら、更なる赤十字運動（ムーブメント）の推進を図ります。

また、この長期ビジョンに基づいて、本社・支部・赤十字病院・血液センター等において、より継続性・一貫性を持たせた効果的な中期事業計画や単年度事業計画の策定、予算編成等につなげていくものです。

3.本計画の基本方針及び位置づけ

本社が策定した長期ビジョン及び中期事業計画に基づき、日本赤十字社大阪府支部の単年度事業計画を策定しています。2024年度（令和6年度）も本計画に基づいて様々な赤十字活動を展開します。





目次

01. 事業について — P.4

国内災害救護



国際活動



赤十字ボランティア



青少年赤十字



救急法などの講習



医療事業



看護師の養成



社会福祉



血液事業



02. 運動基盤強化について — P.11

地域活動の推進

活動資金の募集

事業実施体制等の整備

03. 一般会計予算 — P.12

令和6年度予算の説明



国内災害救護

大地震、台風、集中豪雨等の自然災害が発生する「複合型災害」に対し、感染防止対策を徹底しながら、迅速かつ効果的な救護活動ができるよう、災害救護体制の一層の充実強化に取り組みます。

国内災害救護に活用する金額

6,920万円

災害救護訓練の実施・参加及び行政・防災関係機関との連携強化

10回

- ・第4ブロック（近畿）合同災害救護訓練
- ・行政機関主催の救護訓練
- ・その他団体主催の救護訓練

救護員研修の実施と救護員の養成

14回 **300人**

- ・救護員登録研修（オンデマンド配信）
- ・救護班要員研修Ⅰ
- ・救護班要員研修Ⅱ
- ・こころのケア研修
- ・災害対策本部要員研修
- ・救護資機材習熟研修
- ・全国赤十字救護班研修
- ・テールゲートリフター指導者養成講習

医療救護活動のための資機材の整備

- ・衛星電話 **1台**
- ・酸素濃縮器 **1台**
- ・蓄電池 **3台**
- ・担架 **3台**



被災された方に声をかける大阪赤十字病院の看護師（令和6年能登半島地震）



災害救護訓練に参加し、患者の処置を行う救護班（大阪市総合防災訓練）



救護所での診療の訓練を行う日赤職員



国際活動

国際救援や開発協力等に活動できる人材の育成及び確保に努め、本社からの要員派遣要請に迅速に対応します。また、本社が支援している海外赤十字・赤新月社等の事業に、当支部からも資金を拠出して支援するとともに、職員等を派遣し、人的協力にも努めます。なお、国際活動については、全国の支部から本社に拠出し、本社事業として実施されています。

国際活動に活用する金額

100万円

国際救援要員の養成

質の高い国際救援要員を養成するため、次の研修に参加します。

- ・ 国際救援・開発協力要員研修  1回
- ・ 安全管理研修  1回
- ・ 保健医療 ERU※研修  1回
- ・ 安全管理ワークショップ  1回

国際救援要員等の海外派遣

 本社から派遣要請があった際には、要員を調整し、派遣します。

開発協力事業への参画

インドネシア・コミュニティ
防災強化事業  100万円

NHK海外たすけあいにおける 広報・募金活動の推進

※ 保健医療 ERU (Emergency Response Unit)：診療所や巡回診療（地域保健等を含む1次医療）と手術・入院設備を備えた医療施設（2次医療）の機能を持った資機材と要員。



©PRCS

救急車で負傷者を搬送する赤十字関係者
(イスラエル・ガザ人道危機)



©SARC

崩壊したビルの現場で救護活動にあたる シリア赤新月社の
スタッフ (トルコ・シリア地震)



©インドネシア赤十字社

災害の様子を描写する生徒に知識を確認するインドネシア
赤十字社職員 (インドネシア・コミュニティ防災強化事業)



赤十字ボランティア



身近なものを使った応急手当を伝える防災ボランティア



天王寺動物園とのコラボイベントに協力する青年奉仕団



地域イベントでAEDの体験ブースを出展

地域に根ざした活動を行っている赤十字ボランティアが、世代や分野を越えて連携し、地域課題の解決に向けて活動できるよう引き続き支援するとともに、ボランティア活躍の場の拡充を図ります。

赤十字ボランティアに活用する金額

2,639万円

地域・特殊・青年赤十字奉仕団の特色を生かした活動

- ・各奉仕団、個人ボランティアの主体的な活動
- ・赤十字ボランティアのつどいの開催
- ・ボランティア研修会、合同委員長研修会など各種研修会の実施



防災ボランティアを中心とした防災・減災活動の推進

- ・地域での「赤十字防災デー」の実施
- ・「親と子の防災セミナー」の開催
- ・災害ボランティアセンター運営支援にかかる研修等への参加



災害に備えた他団体との連携・協働によるボランティア活動の場の拡充

- ・おおさか災害支援ネットワーク (OSN) 世話役団体としての活動
- ・大阪災害支援活動連携会議への参加



大阪・関西万博出展の国際赤十字・赤新月運動パビリオン運営ボランティアの募集及び研修の実施



青少年赤十字

次世代を担う若年層が赤十字運動に参加し、赤十字活動を推進することができるよう、教育現場のニーズに即した青少年赤十字活動の展開、メンバー（児童・生徒）や指導者（教員）の育成を図ります。

青少年赤十字に活用する金額

1,488万円

青少年赤十字メンバー、指導者の育成

- ・「リーダーシップ・トレーニング・センター」や指導者養成講習会の開催
- ・高校生メンバーを対象としたボランティア活動体験の実施



学校における青少年赤十字活動の推進

- ・防災教育、国際理解・平和学習、SDGsやキャリア教育などの出前講座の実施



リーダーシップ・トレーニング・センターでワークショップに取り組む小学生メンバー



国際交流事業のプログラムに参加する青少年赤十字メンバー



キャリア教育の出前講座を行う日赤職員



救急法などの講習

救急法などの講習を通じて、いのちと健康を守る知識と技術を広く府民の皆様へ普及し、健康や安全に対する意識の向上、さらには自助共助の取組の促進を図ります。

救急法などの講習に活用する金額

4,438万円

実施回数・受講者数

救急法



220回



9,000人

水上安全法



40回



3,600人

健康生活支援講習



42回



1,200人

幼児安全法



82回



2,200人

防災セミナー



48回



2,100人



心肺蘇生やAEDの使い方などを学ぶ救急法



溺れている人の救助方法などを学ぶ水上安全法



健康増進の知識や介護技術を学ぶ健康生活支援講習



医療事業

大阪府内には、大阪赤十字病院と高槻赤十字病院の2つの病院があります。当支部は、両病院と協調・連携を図りながら、総合的調整のもと医療事業を推進しています。また、災害時には医療救護班を迅速に被災地へ派遣するための体制整備や、災害救護及び救急医療用医療機器等の整備に助成します。

医療事業に活用する金額

39,656万円

災害救護及び救急医療用医療機器の整備助成

- ・ 超音波診断装置  2台

地域医療や国際救護活動に貢献するために必要となる病院機能強化にかかる整備助成

- ・ 外国に発生した災害、動乱等による日本への避難者への医療提供に必要な遠隔言語対応サービス全館実施にかかるwifi整備 
- ・ 血液造影装置の更新 
- ・ 病棟改修（アメニティの向上） 
- ・ 手術関連の医療機器等の整備  など



新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ対応を行う日赤職員（大阪赤十字病院）



医療処置を行う医師（高槻赤十字病院）



院内災害訓練（大阪赤十字病院）



看護実習に臨む学生

看護師の養成

当支部では、優秀な赤十字看護大学生の修学支援を目的とする奨学金制度等を設け、将来病院において指導的な役割を担う看護師の養成に努めます。

看護師の養成に活用する金額

451万円

高度医療を担う看護師の養成

- ・日本赤十字社大阪府支部奨学生  8人
- ・病院の奨学金貸与制度への助成



運動会で競技に参加する子どもたち

社会福祉

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園は、医療型障がい児入所施設・通所施設として大阪赤十字病院の診療部門各科並びに検査部門と密接に連携し、医療・福祉サービスを提供しています。

社会福祉に活用する金額

50万円



献血バスで献血に協力する男性

血液事業

当支部では、大阪府、各市町村、大阪府赤十字血液センターと連携を図りながら、幅広い年齢層の人々に献血の理解を深め、協力いただけるよう情報を提供しています。

府内の医療機関で必要な血液製剤をより安全に安定的に供給できるよう、献血運搬車の整備に助成します。

血液事業に活用する金額

280万円

採血受入機関の整備助成

- ・献血運搬車  1台



地域活動の推進

地域活動の推進に活用する金額

10,716万円

地域の赤十字奉仕団が地域ニーズに応じた活動を推進していきます。



活動資金の募集

地域赤十字奉仕団のご協力による地域に根差した活動資金の募集を基盤として、協力者の利便性、ニーズに配慮し、個人・法人の方へダイレクトメールによる活動資金の依頼を行います。また、社会貢献活動に取り組む企業・団体とのパートナーシップ事業を推進するとともに、遺贈・相続寄付の受け入れを行っている団体としての広報活動に努めます。

地域住民をはじめ法人・団体など多くの会員の皆様には、積極的に情報の提供を行い、赤十字運動にご理解ご協力いただくよう努め、財政基盤の安定化を図ります。



効率的、効果的な活動資金の募集

- ・ダイレクトメールによる依頼
- ・遺贈・相続セミナーの開催 等
- ・広報誌（日赤大阪等）の配布

年4回



地区・分区との連携強化



大阪日赤有功会[※]との連携



法人とのパートナーシップ

- ・寄付型自動販売機の設置
- ・専門機関との連携（大阪司法書士会及び各金融機関等）



大阪府赤十字大会の開催



赤十字会員への広報

- ・情報誌等の発送

年2回

※ 大阪日赤有功会は赤十字への活動資金協力やボランティア活動によるご功績により有功章を受章された方々で構成され、当支部を支援する団体です。



事業実施体制等の整備

赤十字事業の実施及び円滑な運営を図るため、大阪赤十字会館の適正な管理、職員の育成に努めます。



大阪赤十字会館の適正管理

当会館は、災害時のロジスティクス中継基地に指定されています。昭和50年に建設後、50年近くが経過する中、会館の施設設備には老朽化が認められ、機能維持のために会館の継続的な維持管理・修繕が必要となっています。そのため、中長期修繕計画を策定し、建築コンサルタントの厳格な監理のもと、効率的な修繕を行っています。



職員の育成

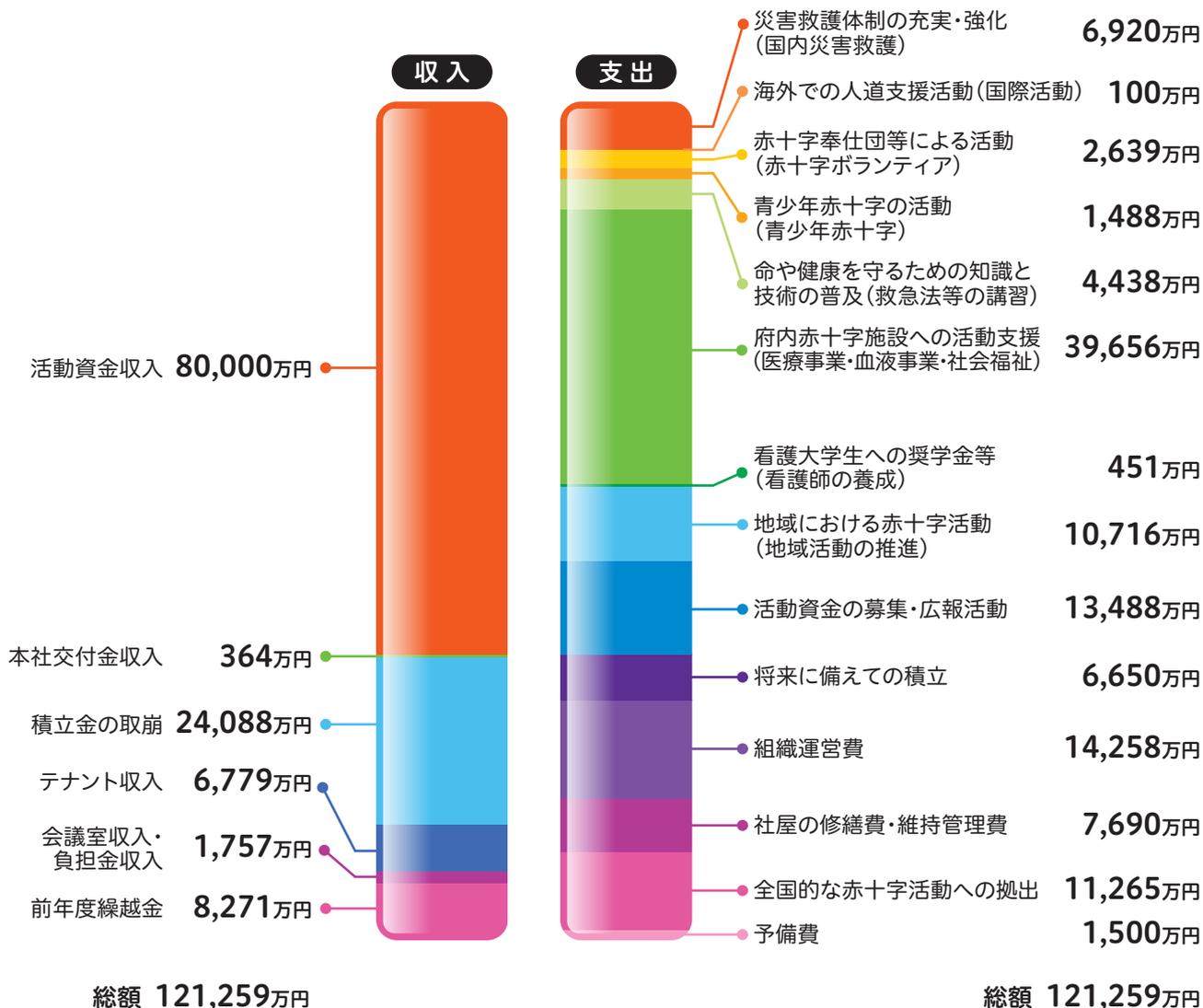
多様化するニーズに対応し得る専門性や総合的に判断力を有する職員を育成するため、研修を計画的に実施します。また、支部・赤十字病院・血液センターのグループ力を高めるために日頃から連携を図り、人事交流を推進します。



将来構想の基礎調査

当会館の将来構想をまとめるための基礎調査を実施します。

令和6年度予算



～赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって支えられています～
 皆さまのご支援・ご協力をお願いします。

郵便局・ゆうちょ銀行からの
お振込によるご協力

口座番号:00990-4-54795
 加入者名:日本赤十字社 大阪府支部

※窓口からのお振込は、手数料が免除されます。
 ※銀行(りそな、三井住友、三菱UFJ、みずほ)からお振込みの場合は、手数料が免除となる振込用紙をお送り
 しますので、下記のお問い合わせ先までご請求下さい。

クレジットカードによる
ご協力

クレジットカードの決済でご協力いただけます。

※日本赤十字社のホームページ(<https://donate.jrc.or.jp/lp/>)から手続きをお願いします。



口座引落によるご協力

指定の預金口座から自動引落でご協力いただけます。

※専用の申込用紙に必要事項を記載していただく必要がありますので、下記のお問い合わせ先までご請求下
 さい。